

ホームページにアクセスしてください。
本学の情報をたくさん盛り込んでおります。
アクセスをお待ちしております。

<http://www.aitech.ac.jp/>

同窓会へのご連絡のお願い

住所変更等は大学HPでも受け付けております。
お住まい、勤務先などに変更のあった方はぜひ
ご連絡ください。登録いただいた個人情報は同窓会に
関する案内の発送のみに使わせていただきます。
本人の承諾なく第三者に開示することはありません。

愛知工業大学同窓会 支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
3. 支部別原案(見本を作成していますので、
参考にしてください)
4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、
電話番号記入
5. 正式に支部として承認されましたら、支部別
に基づき支部長、副支部長、会計その他の
役員を本部に届ける

※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること
申込先
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
愛知工業大学同窓会事務局
TEL.0565-43-1032 (FAX共通)

愛知工業大学 **みずわか** 同窓会機関誌

発行日——2005.12.28
編 集——瑞若編集委員会
編集責任者—岩月 栄治
発行責任者—飯吉 僚
発 行——愛知工業大学同窓会
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
Tel・Fax 0565-43-1032
印 刷——株式会社 大東社
〒494-0008 一宮市東五城字備前25
Tel 0586-62-1168 Fax 0586-62-1751

MIZU WAKA

Vol.38
瑞若会会報

特集 「愛・地球博」へ 積極的に参加! ①～⑧

- CONTENTS
- 9 入試インフォメーション
 - 10 就職インフォメーション
 - 11 本山キャンパス
 - 11 エクステンションセンター
 - 13 AITオープンフォーラム
 - 15 キャンパスニュース
 - 17 クラブニュース
 - 18 クローズアッププロフェッサー
 - 21 がんばるOB
 - 23 ホットボイス
 - 26 同窓生からの投稿
 - 27 新施設誕生
 - 28 事務局だより

「21世紀・万博大学」 開催

2005年4月から9月にかけて愛知工業大学主催の公開講座「21世紀・万博大学」が開かれました。会場は初回4月9日と最終回9月10日は万博会場内のEXPOホール、第2回～12回は大学10号館にて開催。講義の様様を多くの方に見ていただけるよう、遠隔講義システムで本山キャンパスと名電高等学校にも配信されました。

「21世紀・万博大学」を終えて

「21世紀・万博大学」学長
後藤 淳
〔愛知工業大学 総長〕

「21世紀・万博大学」は、愛・地球博（愛知万博）の理念に共鳴して、21世紀の科学技術と人間の係わりを探究することを目的に、4月9日から9月10日まで、全13回にわたり開講し、おかげさまで全日程を終了することができました。

名誉学長には豊田章一郎2005年日本国際博覧会協会会長にご就任いただき、講師陣は、宇宙飛行士の毛利 衛氏、哲学者の梅原 猛氏をはじめ、いずれも日本を代表する各界の専門家を招聘しました。

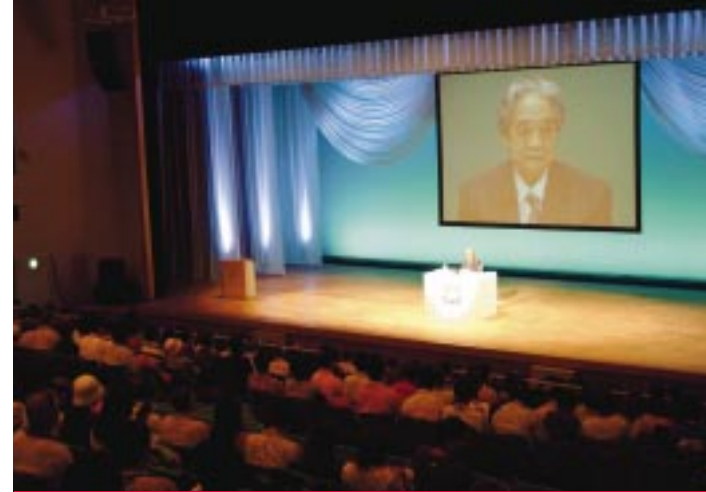
受講生は、本学学生の他、単位互換の取り決めをしている愛知県内の他大学生及び一般社会人です。とくに一般社会人の方々には、多数ご応募いただき、抽選で受講者を選び、延べ3,000名以上もの皆様に受講していただきました。その中には多数卒業生の方々も含まれています。

本学では、この「21世紀・万博大学」という機会を今回だけにとどめず、今後とも、「創造と人間性」を教育モットーにして、大学及び今年開所した本山キャンパスから、卒業生の皆様に対しても数多くの新しい情報発信を続けてまいりたいと思っていますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



「21世紀・万博大学」講座日程

講座	開催日時	講師名	講演テーマ
第1回 (初回)	4月9日(土)	毛利衛氏(宇宙飛行士)	地球生命として未来への挑戦
第2回	4月16日(土)	野依良治氏(理化学研究所理事長)	ノーベル化学賞への道
第3回	4月30日(土)	清水信義氏(慶應義塾大学教授)	ヒトの設計図・ゲノムを極める
第4回	5月14日(土)	坂村健氏(東京大学教授)	どこでもコンピュータの時代
第5回	5月21日(土)	中村桂子氏(JT生命誌研究館館長)	機械論的世界観からの脱却 生命誌の視点
第6回	6月4日(土)	遠藤守信氏(信州大学教授)	ナノテク:技術を超える技術
第7回	6月11日(土)	藤本義一氏(作家)	人間再発見・情報に踊らされる人、情報で踊らせる人
第8回	6月25日(土)	C.Wニコル氏(作家、ナチュラリスト)	森と人間
第9回	7月9日(土)	藤野政明氏(中部HSST開発社長)	HSST「リニモ」に賭けた夢
第10回	8月6日(土)	須藤誠一氏(トヨタ自動車常務役員)	パートナーロボットで未来を拓く
第11回	8月20日(土)	河合隼雄氏(文化庁長官・心理学者)	人間の心と社会のあり方
第12回	9月3日(土)	涌井雅之氏(愛知万博プロデューサー)	地域遺産としてのランドスケープ
第13回 (最終回)	9月10日(土)	梅原猛氏(哲学者)	自然の叡智・人間の知恵



9月10日にEXPOホールで最終講義を開催

2005年日本国際博覧会に合わせて開学した「21世紀・万博大学」の最終講義と閉会式が、9月10日に開かれました。最終講義の講師は哲学者の梅原猛氏。「自然の叡智・

人間の知恵」をテーマに、技術と哲学に関する興味深いお話が展開し、参加者は真剣に聞き入っていました。閉会式では214名の優良受講者に修了証が授与されました。

1 受講者の 声

早川 隆夫さん
昭和42年
経営工学科卒



今後の生き方を 考える参考に

全13回の講義を全て聴講しました。最先端の科学技術をはじめ、コンピュータや遺伝学、心理学など幅広い分野の先生方が登場し、毎回グイグイ引き込まれながら講義の内容に没頭したのを憶えています。また、C.W.ニコル先生や梅原猛先生の講義など、万博のテーマに則した内容も印象的でした。私は今年3月で定年退職を迎えましたが、今後の自分の生き方を考える上でも大変参考になったと思います。

2 受講者の 声

徐 霞さん
大学院経営情報科学研究科
経営情報科学専攻



自然の叡智を じっくり考えたい

日本を代表する各界の専門家のお話を聞き、さまざまな事柄を勉強することができました。宇宙から見た地球の映像を紹介しながら、「ユニバソロジーの世界」を中心に進められた毛利衛先生の講義が特に印象に残っています。人間は世界中300万種と言われる生物の中の一つとして、技術と環境、人間についての関係を深く考えなければなりません。全13回の講義を受けて、愛知万博のテーマ「自然の叡智」をさらにじっくり考えてみる必要があると実感しました。



愛工大では、2005年3月25日～9月25日に開催された「愛・地球博」期間中にさまざまな会場参加や学内展示を催しました。著名人を招いた公開講座や独自性あふれる研究発表など、「愛・地球博」における各種の取り組みを紹介します。

● レスキューロボット

(遊びと参加ゾーン:モリゾー・キッコロメッセ内)

大学内で研究開発を行っているユニークなロボットを展示・実演。会場では、工学部機械学科知能機械工学専攻の加藤厚生教授を中心に研究が進められている「イモムシ型レスキューロボット」などが紹介されました。地震災害時の倒壊現場で被害者を探索するロボットとして真横への移動や方向転換、スロープ・段差などにも対応した高度な機能を実演し、来場者の注目を浴びていました。将来的に「イモムシ型レスキューロボット」は伸縮性を持った形状への改良を目指しているそうです。

また、工学部電気学科情報通信工学専攻の古橋秀夫助教による「人間型レスキューロボット鉄人」は愛工大のイメージキャラクターとして親しまれている「鉄人28号」を本格的にロボット化。手足を使った身軽な動作でガレキを乗り越え、カメラとセンサーで人命を探索します。デモンストレーションでは音声認識によって動く機能などが紹介されました。

● 絵の出るLED風車

(遊びと参加ゾーン:風の広場内)

グローバル・ループから風の広場に至る丘に、絵の出るLED風車を設置。風車の回転に合わせて、「モリゾー・キッコロ」のイラストや「愛知工業大学」といった文字も表示されました。LED風車は工学部電気学科電気工学専攻の一柳勝宏教授・雪田和人助教によって開発が進められ、自然エネルギーに注目した研究として脚光を浴びています。日本では風向きが頻繁に変わり、風速も低いため円筒垂直型の風車が最適。会場内に設置された風車は風速5～6mで動くよう設計されています。将来は大型化を目指し、エネルギー供給だけでなく広告、交通などのメッセージや娯楽性などの機能についても工夫されていくようです。



1



2



3



4



5



6

1/ロボットをチェック・調整する古橋先生 2/片足で立つことも可能 3/芋虫型のレスキューロボット。ガレキの間隙にも入り込めそう 4/小学生から質問を受ける学生スタッフ 5/LED風車の全景 6/LED風車をバックにした雪田先生

「愛・地球博」への参加

● IDCロボットコンテスト2005 in 愛知工業大学

IDCロボットコンテスト国際交流大会は、世界7か国の大学生が混成チームを作り、ロボットを設計・製作し競い合う国際交流イベント。この大会は1990年から毎年行われ、これまでに日本、アメリカ、イギリス、ブラジル、韓国で開催されました。2005年の第16回大会は愛工大がホスト校となり、予選リーグ会場が学内で開かれたほか、決勝トーナメントは「愛・地球博」のEXPOドームで開催。8月2日から14日までの学内ワークショップでは、各国の参加者たちが言葉や文化の壁を越えながらロボットの立案と設計、製作に取り組みました。

マサチューセッツ工科大学(アメリカ)

ケンブリッジ大学(イギリス)

ダルムシュタット工科大学(ドイツ)

フランス大学選抜チーム(フランス)

サンパウロ大学(ブラジル)

ソウル大学(韓国)

東京工業大学(日本)

オープン参加校(日本)

愛知工業大学(日本)

同時開催

■ 学生マイロボット作品展

[日時] 8月3日(水) [場所] AITプラザ1F

愛工大の学生たちが日頃研究を重ねて製作したロボットがAITプラザに集結。クラブ、同好会、研究室などを通して身に付けた知識と技能で、ユニークなロボットを製作・発表しました。

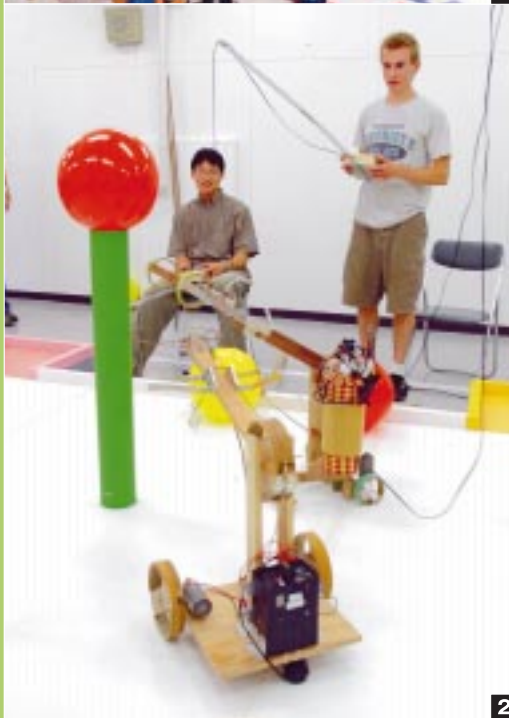
■ ロボット作りを通したものづくり国際教育フォーラム

[日時] 8月14日(日) [場所] 基礎教育センター

ロボット作りを通した科学技術に取り組む世界中の教員が、最新の取り組みについて解説し、意見を交換し合うパネルディスカッション。ロボットを科学技術の象徴としてとらえ、科学の有るべき姿や課題、教育方法の視点から議論を行いました。



1



2



3

● IDCロボットコンテスト2005 決勝トーナメント

愛工大がホスト校となった「IDCロボットコンテスト2005」の決勝トーナメントが8月16日に万博会場・EXPOドームで開催されました。ルールはフィールド上に立てられた紙の筒にできるだけ多くのビーチボールを乗せその数を競うもの。予選リーグで選ばれた7チームと敗者復活戦で勝った1チームがトーナメントに参加しました。熱戦を制したのは岩田雅史君(愛工大)、ジェローム・パケロー君(フランス大選抜)、ダニエル・ドナデル君(サンパウロ大) デレック・タン君(マサチューセッツ工科大)のグレーチーム。「愛・地球博」に訪れた観客の声援を浴びながら優勝トロフィーを手にしました。



4



5

1/「鉄人28号」がデモンストレーションに登場 2/細かな動作をチェック 3/決勝大会の様子 4/学生が協力してロボットを製作 5/各自でアイデアを出し合う 6/参加者同士は英語でコミュニケーション 7/8チームが決勝戦に参加 8/トロフィーを手に歓声を上げる



6



7



8

「愛・地球博」への参加



1

● ストローベイルハウス

草の文化に注目した市民プロジェクトとして、工学部都市環境学科建築環境学専攻の建部謙治教授と有志の学生が参加。古来より人の生活に密着に関わってきた草を利用し、藁を使った家づくりを行いました。藁を圧縮した「ストローベイル」をブロック状に積み重ねて壁面を作り、そこへ泥をぶつけながら壁を被う工法と住宅の実物を瀬戸会場内で紹介。愛工大の学生と一般市民、延べ550人の手によって完成しました。学内のチャレンジプロジェクトで研究を進めている学生は「自分たちでアイデアを出し、先生のアドバイスを受けながら製作しました。泥をぶつけたり道具を工夫して使うなど、昔の人の苦勞が学べたような気がします」と藁の家の出来に満足顔。今後は圧縮強度と防火性の問題をクリアできるように研究を続けるそうです。



2



3



4

- 1/学内に作った藁の家と制作に携わった学生スタッフ
- 2/万博瀬戸会場でストローベイルにさわる子供達
- 3/瀬戸会場の完成間近のストローベイルハウス
- 4/瀬戸会場のストローベイルハウスの全景

● スタジオジブリ・鈴木氏による特別講義

2005年5月12日に、スタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーを招いた特別講義を開催しました。基礎教育センター・森豪教授が担当する「モノづくり」をテーマにした講義の一環として実現。「愛・地球博」では「サツキとメイの家」が注目を浴びる中、1号館で開かれた特別講義には約350名の学生が参加。題材探しや着眼点など創作のヒントについて、熱心に耳を傾けていました。



株式会社 スタジオジブリ 代表取締役社長 鈴木敏夫氏 プロフィール

1948年8月愛知県生まれ。東京の大学に進学し徳間書店へ入社。アニメ情報誌「月刊アニメージュ」がきっかけで宮崎駿氏と知り合いスタジオジブリへ移籍。「となりのトトロ」や「もののけ姫」、「千と千尋の神隠し」などのプロデュースで知られる。



学生で一杯になった講義室の様子

鈴木プロデューサー：スタジオジブリの創造活動

■実体験こそ感受性の要

「映像の仕事に携わっているのに意外と感じるかも知れませんが、私は普段、他の映像作品をほとんど見ないのです」と鈴木さん。その理由は、映像による仮想体験の影響を避けるためだそうです。人間の感受性や身体感覚は実物を見て、感じることで培われます。映像は後で何度でも見ることができるといったメリットを持ちますが、一方で感受性を鈍らせる原因ともなってしまいます。「素晴らしい景色や場面に出会った時にVTRがなければ、人はその場に釘付けになって自分の目で感動しようとするはず。それが身体感覚だと思います」と実体験の重要性を語ります。鈴木さんは、実体験が蓄積されていけば、仮に想像の世界であっても感覚を元に応用し作り上げていくことができることを強調します。実物に触れなくても知識や情報が得られてしまう便利な現代の生活について「人が無意識と身体、共同体を失ってしまったようで寂しい」と感じているそうです。

■宮崎駿氏について

「芸術作品を作ろうとは思っていません。彼は常に自分を職人として位置付けています」と宮崎駿さんについて語ります。旅先では、建物などをじっと見つめることがあるそうです。それは単に眺めているのではなく、窓や屋根などの形と大きさをいくつもの要素に分けて憶えているのです。例えば「ハウルの動く城」は、製作開始の一年前にヨーロッパで見た町並がヒントになっています。しかし記録された資料を元に考えられたのではなく、目で見て心に残された膨大な記憶の中から想像力とオリジナリティを加えて描いています。製作の現場では、記憶を元に改めてスケッチし、思い出せない所は自分の想像力を加えて補う、という作業が非常に重要とのこと。鈴木さんは「美しいものは世の中にたくさん存在しています。それをいかに表現するかが私たちの仕事ではないでしょうか」と話します。

オープンキャンパス 2005開催!

2005年8月3日(水)、学内を会場にしたオープンキャンパスが開かれ、1,500名以上の参加者がありました。高校生の皆さんに愛工大での研究や設備を体験していただくことを目的とし毎年多くの参加者で賑わっています。全体説明会や学科専攻別デモンstrーション、個別相談コーナーなど愛工大に関心を持つ受験生や保護者の方々が真剣な表情で聞き入っていました。



▲凍ったバナナで釘打ち



▲学生の指導で実験に参加



▲開場直後の受付風景

平成18年度入試日程

入試制度	出願期間	試験日	試験会場	合格発表	試験教科
一般推薦	10/28~11/4	11/12	本学	11/18	書類審査・小論文・面接
女子学生推薦		11/14			
総合推薦	10/19~10/24	10/31		11/7	
前期試験一般入試	1/6~1/23	1/29・30・31	※1	2/7	[□]英、数、理(物・化より1科目) [情]英、数 [マ]英、数、国(数・国より1科目)
前期日程奨学生入試		1/30			[□]英、数、理(物・化2科目) [情] [マ]英、数、国
中期日程一般入試	2/1~2/10	2/16	※2	2/23	[□]英、数、理(物・化より1教科選択) (3教科受験し、高得点の2教科で合否を判定) [情]英、数 [マ]英、数、国(数・国より1科目)
後期日程一般入試	3/1~3/7	3/15	本学	3/20	[□]英、数、理(英・物・化より1科目) [情]英、数 [マ]英、数、国(数・国より1科目)
センター利用入試一次	1/23~1/31	—	—	2/10	[□]数、理、(国・地・公・外より1科目) [情]外、数、(国・理・地・公より1科目) [マ]外、(数・国より1科目)、(理・地・公より1科目)
センター利用入試二次	2/27~3/9	—	—	3/20	[□]数、(理・国・地・公・外より2教科2科目) [情・マ]外、(数・国・理・地・公より2教科2科目)

※1 (1/29)本学・名古屋・岐阜・四日市・浜松・静岡・富山・東京・松本・大阪・岡山・広島・北九州 (1/30)本学・名古屋・岐阜・津・浜松・静岡・金沢 (2/1)本学
※2 本学・岐阜・津・浜松・大阪・富山

全学的な就職支援をしています

就職支援センターでは、全学的な就職指導として、就職ガイダンス(講演・パネルディスカッションなど)、就職適性検査、就職模擬試験(一般常識、基礎学力)、就職対策講座(SPI・エントリーシート・面接試験他)などを実施。また、本学支援組織「愛名会」の共催を得て、学内企業研究会および地元企業交流会を開催し、直接企業と接する機会を学生に与え、積極的な就職活動を推し進めています。

学生の能力を活かした就職指導

本学では、就職支援センターによる全学的指導と併せて、各学科の就職担当教員による就職指導を行っています。学科別のガイダンス、個人面談を通し学生をバックアップしながら、能力、適性に合った進路を選択させるように指導しています。就職支援センターと各学科でサポートする就職指導体制により、就職実績は各界から高い評価を得ています。

スピーディーな情報収集

本学にきている求人企業情報を就職支援センターのWebサーバーに蓄積して、イントラネットによる「就職支援システム」を構築しています。このシステムにより、インターネットを使って、学内および自宅から求人企業情報の検索、就職情報会社や各企業のホームページにアクセスすることが可能です。

URL <http://www.aitech.ac.jp/syusyoku/>

パソコンを利用できる就職資料室

就職支援センターには、学生の就職活動をバックアップするために就職資料室を設置しています。資料室には、5,000社以上の企業ファイルコーナー、本学にきている求人企業検索ができるパソコンコーナー、就職に関する相談や悩みをアドバイスする相談コーナー等を設け、就職活動にあたり必要な情報を得ることが出来ます。

平成18年度 就職支援スケジュール

<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 就職ガイダンス ●就職実践模擬試験(スタート)第1回 ●就職試験対策 ●就職適性検査(キャリアアプローチ) 	<p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●面接対策講座(講演) ●第4回 就職ガイダンス(パネル)「4年内定者」 ●第5回 就職ガイダンス(パネル)「OB・OG」
<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履歴書自己紹介文攻略 ●就職適性検査フォローアップ講座(講演) ●第2回 就職ガイダンス(講演)「就職活動～夏休みの課題」 	<p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SG式総合職業適応検査 ●一般常識テスト ●能力適正テスト
<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最重要頻出問題集による筆記試験対策講座(1) ●最重要頻出問題集による筆記試験対策講座(2) 	<p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●面接模擬講座1(面接者と1対1での模擬面接) ●グループディスカッション模擬講座(5~6名の模擬グループ討議面接) ●学内企業研究会(愛名会会員企業) ●面接模擬講座2(面接者と1対1での模擬面接)
<p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第3回 就職ガイダンス(講演)「エントリーシートの書き方」 	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループディスカッション2模擬講義(5~6名の模擬グループ討議面接) ●地元交流会(岐阜・四日市・浜松・富山) ●学内企業研究会(一般企業)
<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SPI能力模擬試験 ●エントリー攻略テスト(基礎編) ●就職実践模試(スタート)第2回 ●エントリーシート攻略テスト 	

求人に関するお問い合わせ先

就職支援センター 就職課

E-mail syusyoku@aitech.ac.jp Tel 0565-48-4655 Fax 0565-48-6140

新規開設>>>本山キャンパス

大学院・経営情報科学研究科を新たに開設

愛知工業大学は2005年4月に大学院経営情報科学研究科として博士課程一貫制度の博士前期課程(2年)と博士後期課程(3年)を同時開設いたしました。本研究科は昼夜開講制を導入し、社会人・外国人の受け入れも積極的に行っております。この機会に卒業生の皆様も再び学び舎に集い、研究活動に進進されては如何でしょうか。

大学院の講義は地下鉄東山線本山駅前に新しく建設しました本山キャンパスで展開されています。仕事と研究を両立するには最高の至便な場所です。サテライトキャンパスは「インテリジェンスに出会う場所」を基本コンセプトとした4階建てインテリジェ

愛知工業大学大学院
経営情報科学研究科

研究科長

野村 健太郎

教授



ントビルです。1Fはインフォメーションセンター、2Fは多目的室と事務室、3Fに講義室とゼミ室、そして4Fに学術研究専用スペースを配置しています。

興味のある方は愛知工業大学広報室(TEL 0565-48-8177)までお問い合わせ下さい。卒業生の皆様にとって有意義なりサーチ・ライフをお約束いたします。

本山キャンパスでオープンカレッジを開校

愛知工業大学本山キャンパス公開講座 ● 春季講座

<ものづくり専門基礎講座>

「なぜ振動するのか?振動の仕組みと対策!」

<専門講座>

「ものづくり経営講座」

<「創造と人間性」教養講座>

1.「世界遺産の源流を訪ねてみよう」

2.「釣りにロマン探求?人と自然の対話?」

3.「夢童由里子の世界」

4.「作家・三宅雅子の世界?「乱流」

木曾三川治水工事とオランダ人技師?」

5.「映画と演劇!心に残る言葉と場面」

6.「現代陶芸作家対話」

7.「山車祭礼とからくり人形?その歴史と現在?」

8.「玉屋庄兵衛のからくり人形?」

私の人形のからくり構造?」

9.「東海・愛知の山車祭り雑学事典」

10.「竹箒師の語る竹の性質造形」

11.「和紙のぬくもりを伝えたい?」

「紙の温度」がなぜ生れたか?」

12.「美濃手すき和紙の今?」

全国の和紙業界における役割?」

13.「<japan=漆(うるし)>の不思議と紙」

14.「紙の造形?紙を折る?」

15.「ものづくり文化?根付の伝統と現在?」

16.「自動車と環境?エコドライブのすすめ?」

17.「自動車と情報?未来の交通システム

(ITS)への招待?」

<「生活の技術:生きる技術」講座>

1.「あなたの町の地震防災は大丈夫か?」

2.「あなたの部屋の空気は大丈夫か?」

3.「あなたの部屋の最適な照明を考える?」

4.「水の不思議?あなたの周りの水を考える?」

5.「プラズマと液晶?どっちのテレビがいいの?」

6.「デジカメ写真の整理術・活用術」

7.「いきいき考える技術」

8.「失敗の科学?失敗を生かす技術?」

9.「マジックを楽しく科学する?喜ばな生活術?」

10.「東洋医学講座?経穴(つぼ)と食の活用術?」

<「人と町の地域学」講座>

1.「名古屋学?名古屋の建築」

2.「名古屋学?古文書から郷土の歴史を探る?」

3.「名古屋学?名古屋で始まったやきもの

(陶器)づくり?」

<ものづくり文化・手づくり講座>

1.「玉屋庄兵衛からくり人形講座」

2.「からくり玩具講座」

3.「竹の造形講座」

4.「篆刻講座?簡単に楽しいオリジナル印づくり?」

5.「伊勢根付の製作講座」

6.「紙の造形講座」

<少年少女ものづくり講座>

「科学はおもしろい。ものづくりはおもしろい。みんなで楽しく学びます。」

1.「ガラス瓶で燃料電池をつくってみよう」

2.「電子オルゴールを作ってみよう」

3.「花、くだものを用いた太陽電池の製作」

4.「クラフト風車をつくってみよう」

5.「ゲルマニウムラジオをつくる」

6.「LED(発光ダイオード)を用いた実験Ⅰ」

7.「LED(発光ダイオード)を用いた実験Ⅱ」

8.「ロボカップジュニア 製作」

9.「ロボカップジュニア プログラミング」

10.「ロボカップジュニア サッカー&ボウリング」

<日本語講座・数学検定講座>

1.「日本語講座」

2.「実用数学検定試験(準2・3級)直前対策講座」



大学院のサテライトキャンパス

大学院経営情報科学研究科の講義は、豊田市八草の八草キャンパスと名古屋市千種区の「本山キャンパス」で行われます。地下鉄本山駅から徒歩すぐの好立地は、アクセス上でも大きなメリット。学生はもちろん社会人にも無理なく学ぶことができる環境を整えました。

Comment_1

岩本 典征さん

立地の利便性を有効に活用しています



本山キャンパスへ通う

ようになって驚いたのは、交通の利便さです。地下鉄で通学できるので生活範囲がグッと広がっただけでなく、時間を効率的に使うことができます。講義の合間に自習室をよく利用していますが、1人1台ずつPCが使用でき、プリントアウトも随時できるので重宝しています。大学院には留学生も多く、皆との意見の交換はとても刺激的です。さらに積極的に交流をはかるため、今は中国語の習得に関心を持っています。修了後は出身地の大分へ戻り、会計ビッグバンなどの知識を生かしながら地元企業で活躍できればと考えています。

Comment_2

四居 裕輔さん

2つのキャンパスで充実した毎日



県立高校の非常勤講師として勤務しながら大

学院に通っています。研究のためのスペースをいただいているので普段は八草キャンパスに常駐していますが、授業を受けるために本山キャンパスも毎週利用しています。本山キャンパスの講義室は少人数に対応した設計がなされているので使いやすく、先生へ気軽に質問ができるように感じました。私は卒論から継続して「モノの価格」に関する研究を続けているので、将来は販促系の職業を希望しています。高校の授業やTA(ティーチング・アシスタント)、論文の準備など忙しいながらも充実した毎日を送っています。

エクステンション講座 開講講座の一部(2005年度)

講座名	開講期間	受講料		
3次元CAD	9/27~12/2	49,000円		
初級CADソフト・ミソトナ(秋季試験対策)	6/9~10/6	35,000円	宅地建物取引主任者	5/11~10/12 53,000円
基本情報技術者(秋季試験対策)	6/27~10/7	57,000円	2級建築士	9/28~12/8 25,000円
マルチメディア検定(2・3級)	5/13~6/20	33,000円	福祉住環境コーディネーター(2・3級)	5/17~6/21 25,000円
パソコン総合基礎	6/4~7/9	12,000円	簿記検定(3級)	8/23~11/11 26,000円
MOS試験Word	9/24~10/22	14,000円	色彩能力検定(2・3級)	7/6~11/9 38,000円
MOS試験Excel	11/19~12/10	14,000円	電気主任技術者(第3種)	5/10~8/3 20,000円
MCP(マイクロ認定技術者)	8/2~8/11	65,000円	危険物取扱者(甲種)	6/21~7/5 7,000円
Java SJC	8/25~9/5	65,000円	危険物取扱者(乙種4類)	9/27~10/6 6,000円
TOEIC(前期)	5/9~7/7	27,000円	公務員基礎	8/3~1/18 50,000円
TOEIC(夏季集中)	9/5~9/14	26,000円	公務員直前(教養)	3/13~3/24 30,000円
TOEIC(後期)	10/25~1/17	27,000円	公務員直前(技術)	3/13~3/31 40,000円
CAD利用技術者2級(前期)	5/6~6/17	29,000円	就職試験対策講座	10/8~12/3 15,000円
CAD利用技術者2級(後期)	9/26~11/14	29,000円	タッチタイピング講座(前期)	5/23~6/10 29,000円
CAD利用技術者1級	8/24~11/12	45,000円	タッチタイピング講座(後期)	11/28~12/16 29,000円

エクステンション講座を受講しませんか?

エクステンションセンターでは、在学生や卒業生を対象に、資格取得・スキルアップを支援する実学的講座を開催しています。エクステンション講座は通常の授業とは別に、授業後や長期休暇を利用して参加できます。

本学の教育研究の中心には、「ものづくり」があります。最先端のハイテクに取り組むばかりでなく、「ものづくり」がこの地域の特質であり、人々が営々と築きあげ、今も古くから人々が伝え、育んできた「ものづくり精神」の発露として、人々の中に展開されている「ものづくり文化」に目を向け、「ものづくり」の原点である陶磁器や「からくり人形」などの伝統産業から最新のハイテク産業まで、「ものづくり」の素晴らしさを語り、「ものづくり」に関わる人間について、「ものづくり」の土壌であるこの地域について学び、「ものづくり」を体験する公開講座を多様な形で、オープンカレッジとして開校致します。

本学と各地の地域支部が連携して「オープンフォーラム」が開催されました。地震やインターネットなど幅広いテーマが取り上げられ、多数の卒業生や一般市民が参加。熱心に聞き入っていました。

第51回 AITオープンフォーラム

平成17年8月27日(土)
岐阜会場(岐阜グランドホテル)

「環境にやさしい電気エネルギー」

講師: 依田 正之(工学部電気学科教授)

「電気エネルギーと現代社会」「電気エネルギーの利用」「環境と電気エネルギー」「風力発電」「今後の課題」と題した講話。本学園ロゴであるオームの法則「 $E=V/R$ 」図案化の説明や、日本の電力送電線網、夏季雷と冬季雷の比較、雷雲の電荷負荷、分光スペクトルなど日頃我々が接している電気エネルギーについて解説がなされました。



同窓会「岐阜支部総会」開催

平成17年8月27日(土) 岐阜グランドホテル

岐阜県支部役員、会員16人と大学本部から稲垣慎二副学長(瑞若会顧問)はじめ6人の役員が出席して、第4回岐阜県支部総会が開催されました。議事に先立ち、稲垣副学長から大学の現況報告等を含めた挨拶があり、引き続き総会次第に沿って議案が提議。審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。新役員についても選出され、同役員により岐阜県支部の運営がなされることになりました。



第52回 AITオープンフォーラム

平成17年9月17日(土)
関西会場(京都タワーホテル)

「地震に立ち向かう」

講師: 正木 和明(工学部都市環境学科教授)

兵庫県南部地震により淡路、阪神地域が甚大な被害を被ったことから、地震を引き起こす断層が京阪神地域にはたくさんあることがわかります。近畿地域の地震被害例、直下型地震・海溝型地震のメカニズム、被害予測、災害対策について説明がなされました。京都市南部で5強あるいは北部で5弱の揺れが生じた場合の建物被害について、花折断層(京都)については震度分布図を交え、また、上町断層帯(大阪)についても震度分布図を用いての紹介がありました。



第53回 AITオープンフォーラム

平成17年9月24日(土) 三重会場(四日市都ホテル)

「インターネットの誕生、その未来、デジタル通信革命」

講師: 近藤 高司(経営情報科学部情報科学科教授)

今日のインターネット技術の基礎は、アメリカ国防総省が開発した核攻撃に耐える次世代の軍用通信システムでした。その後、多くの研究者による技術開発が進められ、より便利で、高速で、高信頼性で、経済的な通信手段となりました。今日、インターネットはビジネスや行政はもちろん軍事、大学など、ありとあらゆる分野で使われ、通信の社会基盤(コミュニケーション・インフラストラクチャー)となっています。インターネットの基本的概念、分散化通信網、パケット通信などの現状と未来について、わかりやすく明快な解説がなされました。



同窓会「三重県支部総会」開催

平成17年9月24日(土) 四日市都ホテル

三重県支部役員、会員31人と大学本部から松本壮一郎瑞若会副会長はじめ5人の役員が出席して、三重県支部総会が開催されました。議事に先立ち、松本副会長から大学の現況報告等を含めた挨拶があり、引き続き総会次第に沿って議案が提議。審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。新役員についても選出され、同役員により三重県支部の運営がなされることとなりました。



第54回 AITオープンフォーラム

平成17年10月8日(土) 北陸会場(ホテル・イン金沢)

「色で売る戦略-カラーマーケティング-」

講師: 石垣 尚男(経営情報科学部マーケティング情報学科教授)

色の特性を利用して、商品、広告などにどの色を採用すれば消費者に好まれる印象を与えるかを調査し、販売につなげる戦略をカラーマーケティングと呼びます。「色で売る戦略」つまり色はマーケティングの有望な戦略と言えます。講義ではカラーマーケティングが盛んになった理由を興味深く解説。また、色は商品の外面的な印象を決定し、商品があふれる中では、自社製品に注目させ、手にとらせることが重要です。一方で色が不適切ならばアピールせず、場合によっては商品のイメージダウンにも繋がりかねないことから、色の基礎知識、カラーマーケティングの実際についても詳しく紹介されました。



同窓会「北陸支部総会」開催

平成17年10月8日(土) ホテル・イン金沢

北陸支部役員、会員17人と大学本部から稲垣慎二副学長(瑞若会顧問)はじめ4人の役員が出席して、第7回北陸支部総会が開催されました。議事に先立ち、稲垣副学長から大学の現況報告等を含めた挨拶があり、引き続き総会次第に沿って議案が提議。審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。新役員についても選出され、同役員により北陸支部の運営がなされることとなりました。



第55回 AITオープンフォーラム

平成17年10月15日(土)
中国・四国会場(岡山口イザルホテル)

「人にやさしい住まい・町」

講師: 建部 謙治(工学部都市環境学科教授)

現代社会において、私たちはどのようにすれば快適に暮らせるのでしょうか。現代人の行動を観察し、住まいや街の歴史的な考察を通して、人に優しいこれからの公共空間、居住空間について講話がなされました。また、人と人との距離、人と環境の関わり、公共空間のデザイン、安全・安心・快適な街づくりなどのほか、以下の事例の紹介を交えて解説がなされました。●自然環境と地球環境について ●体の向きと空間タイプ ●環境を考える(住まい編)→福祉環境、居住環境 ●ノーマライゼーション、バリアフリーデザイン→ハートビル法(1994)バリアフリー法(2000)ユニバーサルデザインの7原則 ●バリアフリーの目的 ●65才以上からの「介護保険」 ●愛・地球博のグローバルループはユニバーサルデザイン ●自然環境の保全・育成 ●口ハスの行動 ●景観三法(2001)→原風景と心像風景



第56回 AITオープンフォーラム

平成17年10月22日(土) 静岡会場(浜松名鉄ホテル)

「司馬遼太郎と時代をゆく」

講師: 森 豪(基礎教育センター総合教育教室教授)

司馬遼太郎の考え方、司馬ものづくり、司馬と文化・文明など、司馬遼太郎の考え方と照らし合わせながら講話。「人間は鎖の一環ですね。はるかな過去から未来にのびゆく鎖の」「人間は自然の一部」などの言葉が印象的でした。

講話の題目は次のとおり。 1.序-「司馬遼太郎と時代をゆく」ということ- 2.1960年代から70年代そして現代 3.司馬遼太郎の考え方 4.大阪万博と愛知万博 5.愛知工業大学と愛知万博 6.「21世紀☆万博大学」で見えたもの 7.科学技術は文化 8.ものづくりは文化 9.ものづくりは人づくり 10.司馬遼太郎の文化と文明



サイエンス大賞国際交流大会

日頃の研究内容で国際交流



発表者が積極的に解説



研究を通して交流



熱気に包まれたステージ発表

愛工大では、青少年に科学への興味・関心を喚起することを目的として「AITサイエンス大賞」を毎年開催しています。これは東海四県下の高校生が日頃の研究成果を競い合うもの。今年は「愛・地球博」の開催に合わせて北米の高校生代表を招いた「サイエンス大賞国際交流大会」を7月9日(土)に特別開催しました。来日したのは主催者である愛工大とトヨタ自動車TMMNAの呼びかけに応じた26名。アラバマやカリフォルニア、ケンタッキーなどさまざまな地域から訪れました。また、日本からは昨年の受賞者をはじめ23校が参加しました。

ステージ発表では日・米ともに全ての参加者が英語でプレゼンテーション。自然科学部門、ものづくり部門に分かれて研究成果を発表しました。

まるごと体験ワールド

実験や実習を通して科学を楽しむ

子どもたちが工学や情報科学などの楽しさを見つけられるイベントとして毎年好評の「まるごと体験ワールド」。今年も7/30(土)と7/31(日)に大学内で開かれ、約600人が参加しました。各教室を会場に「クラフト風車を作ろう」、「パソコン分解講座」など10講座を開講し、みらい工房の施設を使った「よく飛ぶ竹とんぼを作ろう」では、親子で工夫しながら竹とんぼ作りにチャレンジしていました。

学生が丁寧に解説



竹とんぼづくりに取り組む



ロボカップジュニア愛工大大会

自作ロボットで対戦

愛工大での開催は今年で4回目となる「ロボカップジュニア」。小学5年生から中学生を対象としたロボットコンテストとして毎年熱戦を繰り広げています。10月15(土)の試合日には、世界大会のルールに合わせてロボットを組み立てた8チーム16名がエントリー。各自でプログラムの調整などを行いながら試合に臨みました。優勝したのは今回初参加の野辺君と松澤君。「マクロ機能を利用しながら、個々の動き制御する点が難しかったです」と勝利のポイントを嬉しそうに話しました。



各自で工夫をこらした自作ロボット

第45回 愛工大祭「フェニックス」

学生たちで作る恒例のお祭り

2005年10月12日から16日までの間、大学祭実行委員の主催で第45回愛工大祭が開催されました。今年のテーマは、大学祭の思い出がいつまでも心に刻まれるようお願いを込めた「フェニックス」。毎年恒例の工科展やセントラル広場を利用した模擬店、AITプラザ周辺に出店するフリーマーケットなどが登場し、学内外からの参加者で賑わいました。



多彩な模擬店とステージイベントで賑わう



一球入魂!目標は全国制覇

硬式野球部 [主将] 中村 敦志

愛工大野球部は“全国制覇”を最大の目標として日々の厳しい練習に励んでいます。部員は42名と少数ですが、選手個々のレベルは高く、少数精鋭です。また、選手の意識も高く向上心もあり、目標を達成するために努力することのできるチームです。部の雰囲気もよく、設備も充実し合宿や遠征など多い恵まれた環境の中で活動出来ています。

近年、実力を出し切れずに全国の舞台からは離れていますが、今年のチームはメンタル面に優れ、チームワークもよく何より勝利への執着心はこのチームにも負けません。

今年こそは4年生を中心としてチームをまとめ、全員野球で全国に返り咲き、神宮球場で愛工大の野球を存分に発揮して見せます。



1/このメンバーで全国制覇が目標です 2・3/日々の鍛錬が実を結びます



クラブニュース

電気・機械を自在に操る技術者集団

AITEP (Aichi Institute of Technology Electronic Power) 電気工学研究会 [代表] 太田 拓弥

私たちのサークルは電気学科を中心としたサークルで、十数年の歴史を持っています。現在の部員は29名。主な活動内容は大学祭工科展とバッテリーカーの製作です。工科展ではバッテリーカーの他に近年リニアモーターの製作にも力を入れており、電気回路はもちろんのこと電子回路や機械工学の勉強もしています。バッテリーカーはただ製作するだけでなく“World Econo Move”とい

った大会に参加し、工業大学で将来の技術者としての知識をつけその一歩を踏み出している中、独自のスタンスで環境問題とも向き合っています。部員同士の仲もよく、電気学科を中心としたサークルなので上下関係の繋がりがとても強く学年を超えた和やかな点が特徴です。部員は皆“ものづくり”が好きで、



1/みらい工房にて。僕らの工場です

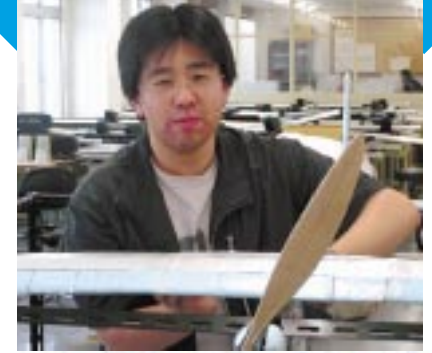
何かを作りたいと思う人が集まっています。理論中心の大学の講義とは違い、実際にモノを作りそれを動かすことで楽しみながら電気について学んでいます。

希望をのせて琵琶湖の空へ

人力飛行機同好会 [代表] 林 賢亮

平成17年度から活動を開始した新しい同好会です。現在は平成19年度の鳥人間コンテスト・人カプロペラ機部門出場を目指して週に2回機械学科棟内で活動を行っています。活動内容は昨年度より機械学科卒業研究で行っている「人力飛行機研究」を基にした機体の製作と各種試験の実施です。今年度の目標はコンテスト出場用実機のプロトタイプ機(多目的試験機:翼幅約27m)の製作と地上滑走試験の実施です。航空機に関しては素人ばかりのメンバーですが各自で知識を深め、良い機体を製作できるよう努力しています。今後は会員を増やしつつ、コンテストで上位入賞のことができるような機体になりたいと思います。

応援してくださっている諸先生方、卒業生の方、今後ともよろしくお願い致します。



1/創作意欲に溢れています 2/1/5モデルの試験飛行 3/プロペラが推力の命



クラブニュース

マーケティングの面白さを追求中

マーケティング研究会 [代表] 森野 ミユキ

マーケティング研究会では、大学祭での工科展への参加を目的にしています。大学で学んだことを生かして、それぞれ自分のやりたい興味のある事を研究します。去年は東京ディズニーランドのリピーター率について調べ、お客をまたせる時の工夫など、「なぜまた行きたくなるのか?」をテーマに、ただ遊びに行っただけでは気づかないような事について調べました。マーケティングは普段日常から得られる知恵が多く、そういった考えを持って生活すると見えないものが見えてきます。売れているお店には本当に理にかなっているということにも気づきます。マーケティングを学べば普段町を歩いても「ここをこうすれば良いのに」、「このお店はどうなるのか?」と考え、いろいろ想像も膨らみます。今年も工科展で高い順位をとれるように頑張っていきたいです。



1/様々な方向からマーケティングを考察

学生を励ます 全人格的教育

PROFESSOR

電気学科電子工学専攻
山田 諄教授



高気圧レーザープラズマ装置の
光軸調整を行う山田先生

レーザープラズマとレーザー工業計測を研究

レーザーの応用としてレーザープラズマとレーザー計測の研究を行っている山田先生。100気圧以上の高気圧気体内へ集光照射が可能なエキシマレーザー装置を使った高温高密度プラズマの生成や、半導体レーザーを用いた工業計測として小型距離計や振動計、超音響効果を用いた非破壊センサなどの研究を進めています。

モノづくりの現場では自動化が進み、シーケンス制御が主流となっています。しかし一方で、正確さの管理や確認の手だてに関する問題点も指摘されています。そこで先生はインプロセス計測が可能なレーザーに注目。「良いモノを生み出すためには、作りながら計測する必要があります。手段としてのレーザーは今後も重要な役割を果たしていくのではないのでしょうか」と展望しています。

自分で考える能力を養う

近年、以前に比べて大学が大衆化されてきたと言われています。とすれば専門的な知識の暗記に終始してしまう学生生活ですが、山田先生は物事の本質を理解し、筋道を立てた考え方を培うような指導に取り組んでいます。「今の学生達は、きちんと動機付けを行えば真面目に行動します。何が必要で何ができるかということを正しく理解すれば皆真剣に研究します」と学生のやる気を引き出します。推理能力をはじめ、知的労働すらコンピュータにまかせる時代。人間が考えることを止めて機械に頼り切ってしまう将来を山田先生は危惧しています。「人生のさまざまな壁に直面した際、それをどうやって乗り越えるか工夫する過程こそが重要だと思います。身に付けた考え方や手法はきっと財産になるはずですよ」。この意味で全人格的教育にも積極的です。例えば山田先生は6階にある自分の研究室まで階段を使って行き来していますが、これは、先生自身の姿が学生の記憶に残り、将来「自分も頑張らねば」と励みになればとの願いです。

また、山田先生は就職に関する相談も頻繁に受けているそうです。「学生には、就職に3つの目的があることを教えています。生活のため、自分を生かすため、社会的使命を果たすための3つです」。職業を通して社会に貢献できることを強く指導しています。

生活の場面で役立つ英語を

森先生は基礎教育センターの助教授として英語の授業を担当しています。「英語Ⅱ」は科学技術英語、「英語Ⅳ」ではリーディング中心。「英語Ⅲ」ではニュースや時事ネタなどのヒアリングを交えながら進めています。「コミュニケーションは、表情や口の動きを読むことも大事。ですからできる限りビデオなどの映像を多く取り入れるようにしています」と語る森先生。研究に必要な語学力を得ると同時に実生活でも十分役に立つ英語の習得を目指します。

愛工大の教壇に立って(非常勤を含めて)今年で13年目。「初めての年は専門知識が不足しており、私自身が物理・化学の勉強に追われました」と当時を振り返ります。OBからも積極的に話を聞き、「海外の納入先で製品の動作を説明するのに困った」などの経験談から、専門分野に進む前段階の基礎的・実用的な英語の学習が進められています。

「優れた製品を世に送り出すエンジニアにとって、常に世の中の動きを知っておくことが必要ではないでしょうか」と話す森先生。工業大学の学生は、実験やレポートに多くの時間を使いますが、そんな彼らにこそより広い視野を持ってほしいと考えます。

また、TOEFL対策講座では、就職試験にも役立つ内容が学生に好評です。今後はさらに日常会話やビジネス会話などにも範囲を広げていきたいとのこと。

エリザベス・ジェームズ朝のイギリス文学を研究

先生自身の専門分野は16・17世紀のイギリス文学とキリスト教文化史。プロテスタントが国教だった当時のイギリスではカトリックが迫害され、独自の文化や制度を形づくっていました。自由に出版することも禁じられていたので、資料は写本や手紙も大切。「マイナーな分野なので手探りながら研究を続けていきます」と今後を語ります。

英語ⅡⅢⅣについては習熟度別編成。映画、テレビのニュースなど、色々な教材を使用

実践的な 英語の習得を目指して

ASSISTANT PROFESSOR

基礎教育センター／総合教育教室
森ゆかり助教授



愛知工業大学名電高等学校
野球部監督
倉野 光生氏
Mitsuo Kurano



勝ち取った選抜の優勝旗



スイングを個々に指導



GAN
BARU
OB
Senior's Activity 2005



愛知高速交通(株)
工学部電子工学科卒業
川崎 美子氏
Yoshiko Kawasaki



制御装置を点検



線路上で機器をチェック

「教育の一環」としての野球を重視

選抜優勝を果たした名采配

高校球児たちによって毎年熱戦が繰り広げられる高校野球。平成17年には、愛知県代表として名電高校が春の甲子園、選抜大会優勝を成し遂げ、春夏連続出場しました。倉野さんは昭和56年に名電高校の野球部コーチとして就任。平成9年から監督としてチームを指揮しています。

倉野さん自身もちろん元・野球少年。小学生時代からキャッチャーとして活躍し、広い視野で全体を見渡すことに関心を持っていました。愛工大在学中には全国ベスト4入りを経験するなど、強いチームに求められる要素を肌で感じたそうです。また、当時の監督との出会いも大きな影響を与えました。教わったことが指導者としての現在に反映されているだけでなく、名電高校野球部のコーチ就任時に監督から「野球に人生をかける決意を持って」と言われたことが今も心に残っているそうです。

生活の中で培われる教育としての野球

名電高校野球部は昭和30年創部。「礼儀・チ

ームワーク・ファイト・努力・機敏」を部訓とし、50名の選手が春日井市の合宿所で毎日を送っています。選手たちもごく普通の高校生なので平日は毎日午後3時まで授業。午後の3時間ほどをチーム練習とし、残りの自由時間をトレーニングなどに充てています。強いチームを作るには良い選手を育てることだけでなく、施設や体制などの環境が整っていることも大切。名電高校野球部では生活の内容や指導者を含む組織も重視しています。「教育の一環としての野球なので、技術の向上や試合の結果だけを求めてはいけません。私の指導では、練習よりもむしろ掃除や洗濯といった生活面に重きを置いています」と語ります。

監督はコーチに比べてより責任が要求されるポジション。就任から8年を経て今後にはさらなる意欲を燃やします。「日本一になるためには日本一になった人の話を聞くのが一番。好成績を残した人のノウハウを聞くべきです」と他校との交流にも積極的な倉野さん。「野球は生活だ。生活が野球だ」との言葉が掲げられた合宿所で時には厳しく、時には優しく選手たちを見守りながらの指導が続きます。

「リニモ」の安全な運行を守る

設備の保守・点検を行う唯一の女性スタッフ

藤が丘駅から八草駅までを結び、愛知万博の交通機関として活躍した「リニモ」。日本初の磁気浮上鉄道として注目を浴びています。川崎さんは「リニモ」を運営する愛知高速交通株式会社に勤務。川崎さんの所属する電気区では主に電気系統の保守と点検を行っています。運行が終了した深夜の線路を数キロにわたって歩いて点検するなど体力勝負の毎日。「いわゆる“3K”が好きでなければ続かない仕事です。作業着が汚れるほど“働いたなあ”と実感します」と笑顔で話します。職場で唯一の女性スタッフですが、周りの先輩たちに負けまいと奮闘しています。

川崎さんのチームは制御装置の保守・点検を担当。初めて装置を見た時は「コンピュータのかたまりのようでとても驚きました」との感想。鉄道が持つ一般的なイメージとのギャップを感じたそうです。

「リニモ」では自動列車運転装置(ATO)を採用しているため、基本的に自動運転。ホームドアなどの安全面には特に細かな配慮がなされています。安全性を確保するために日常的な点検が

欠かせません。設備が適切に動いているかのチェックはもちろん、速度検出など従来の鉄道とは異なった部分でも気を使います。

技術者として勉強中

川崎さんがこの職業を選ぶきっかけとなったのは、愛工大在学中に通学バスから見た「リニモ」の建設現場。徐々に出来上がっていく構造物を見て興味を覚えたそうです。入社後は、2004年の9月まで鉄道会社で研修を受けて、鉄道についての知識を習得しました。通信・変電・信号・電路などを現場で学ぶうちに、いつの間にか電車が大好きになってしまったそうです。

今後は信号についてももっと勉強したいという川崎さん。現在はホームドアをはじめとしたリレー回路の図面が読めるように勉強をしています。「一般回路とは異なるのですすぐには理解できないですが、じっくり学んでこの分野を極めたいと思います」と意欲的。他にも変電・電路のことも勉強して一人前の技術屋になりたいと語っています。技術者としての将来が期待されています。



5月の懇親会(中段左が朱宮氏)

ものづくり 日本をアシスト

菱電工機エンジニアリング(株)

朱宮 正治氏

昭和55年 電子工学科卒業

早いもので卒業して25年が経過しました。

当時、私が会社を選んだのは、パソコンを組み込んだ製品の仕事をしたいと考えていた時、設立後初めて社員を採用する会社があると聞いて応募・入社し現在に至っています。

会社の仕事の内容は、三菱電機産業メカトロニクス製品(数値制御装置・レーザ加工機・放電加工機)の保守サービスを実施しており、お客様の機械稼働率向上(定期点検による故障の予防、故障発生時の迅速な復旧)を目指し、ものづくり日本をアシストしています。愛知工業大の卒業生は、現在40名在籍(社員総数は546名)し、管理職は13名を数えます。私の仕事は、品質管理室で会社のサービス品質が、毎年向上するように、品質保証活動を実施し、心のこもった技術とサービスで、お客様との信頼を築いて行くことです。

私は大学在学中、総合工学研究会に入部し、エコランの大会に出場していました。サークル活動の中でFRPというハンドメイドのプラスチックを扱ったことがありました。それがきっかけで普段から身近に接するプラスチック製品の製造に携わる仕事を希望し、現在キョーラク(株)に勤めています。マヨネーズなどの容器や点滴の容器、自動車のタンクやダクト、ユニットバスの天井など多くのプラスチック製品を手掛ける会社です。私の勤める工場では主にウォッシャータンクや工具ケースなどを製造しています。

現在私は工場で製品の成型作業をしています。まだまだ仕事に慣れておらず、体調管理に気を配る毎日が続いています。まずは成型作業をきちんとこなせるようになることが目標ですが、装置の設定やメンテナンスなど他の必要な作業も早く覚えたいと思っています。



成形作業用の機器が並ぶ職場

在 学中のサークル 活動がきっかけに

キョーラク(株)

祖父江 和之氏

平成17年 機械工学科卒業

H O T V O I C E ホットボイス

「瑞若会報」が発行される頃は万博も終わり、ひとつの思い出になりそれぞれの語り草に収まっている時期でしょうか。そんな思い出の中から関東支部が主催し実施した「我々の修学旅行」の報告をします。

昨年の総会では、万博『愛・地球博』を主題として曾田忠宏教授に講演願いました。

そんな話題の中で「東京からバスを仕立てて行くじゃないか」「行くなら会場に近い大学キャンパスも行こう」という盛り上がりになりました。本年3月13日総会を終えて、7月2日～3日実施の予定がまとまり準備を開始。テーマの設定・参加呼びかけ・確認そして実行となりました。7月2日東京駅バスターミナルへ集まったのは意気盛なおじさん13名グループです。午前9時過ぎバスは愛工大へと出発し、それぞれ学生時代のこと、仕事のこと、名古屋そして東京物語、定年となった人はなったなりにこれからの希望など話しあい和気あいあいと、午後の2時過ぎ到着しました。

石川貴之氏(41K)、鈴木達夫教授、飯吉僚教授そして事務局山田千代美さんのお出迎えを得て、石川さんから大学の歴史、現在の状況そして少子化対策など聞きました。八草キャンパスをくまなく案内いただきました。整備された陣容を見て、感嘆しきりです。43年卒まではここでの授業経験がなく、45年46年卒組も当時は工事中の



愛 工大八草キャンパス訪問と 『愛地球博』の旅

関東支部長
(株)東京ミュー精器

高原光立氏 昭和43年 機械工学科卒業

八草キャンパスで記念撮影

印象が強かったといえます。総面積20万坪あるとの事、いい雰囲気になったと実感しました。

旅の常で、行きは元気で帰りは静かというパターンになりました。

大学訪問を成し、『愛・地球博』を観覧できたことはやはり特筆ものでした。各人それぞれ参加して良かったという感想です。企画以来出発までヤキモキすること多かりしでしたが無事終わってみると、同窓のよしみを感じながら皆で動き、大学の歓迎を得て、もう生存中三度目はないであろう日本での万博見物、これら総合的に考えて、いい機会を作ることができたと思います。

参加者全員にエールを送るとともに、協力いただいた先生方に深謝いたします。

H O T V O I C E ホットボイス



右が竹田氏、左は静岡県支部 支部長の大林猛氏

6月12日(日)、28名の参加者が浜松西インター近くの契約駐車場に集合し、貸切バスで出発しました。特記すべきは太田修氏(瑞若会会長)や大林猛氏(静岡県支部長)、大須賀憲生氏、伊藤有三氏、今村春幸氏、花島良富氏の6氏が夫婦同伴で参加いただいたことです。県支部では昨年10月に第6回支部総会を開いたほか、年2～3回のペースで新年会や忘年会、懇親会などを開催してきましたが、ご夫婦揃っての行事参加は今回が初めてです。

愛 工大八草キャンパスと 『愛・地球博』見学ツアー

静岡県支部

竹田 昌治氏

昭和42年 電気工学科卒業

当日は8時30分に八草キャンパスに到着し、石川貴之氏が休日にもかかわらず学内を案内してくださいました。今回の参加者の卒業年度は昭和41年から58年までで若水校舎出身者もおりましたが、参加卒業生のほとんどが数十年前にお世話になった学舎の変貌に感嘆の声を上げていました。現在の学生数は約6000名(内女子は約600名)、キャンパス敷地は20万坪にもおよび施設の拡充に驚きました。また、学術研究においては文科省認定学問として耐震、防災、環境など近年の社会ニーズに合った授業を受けられるため、中部地方でも屈指の私立工業大学として重責を担っているとのこと。大学の発展に感激すると同時に脈々と続く伝統が存在することも心強く感じました。

今回の企画をしていただいたこと、参加者を代表してお礼を申し上げます。

インターンシップで 行政の使命を体感

瀬戸市役所 勤務

山田 清子氏

平成12年 土木工学科卒業



経験を糧にしながら日々奮闘中

在学中、県の土木事務所でインターンシップをさせていただきました。それまで公務員は希望しておらず、半ば仕方なく通い始めましたが、1ヶ月間の職場体験を通して、行政の中の土木分野が果たすべき使命の一端に触れ、この分野で住民サービスを念頭に仕事することもステキだなと思い、市役所に入庁しました。入庁してすぐに、道路整備に携わる中で、道路が広くなり舗装がきれいになったことを住民の方に喜んでいただき、インターンシップでステキと感じたことを体感する一方、道路の拡幅整備のために土地を買収させていただくことの難しさ、大変さを目の当たりにした時は、公共事業を進めることの難しさを垣間見たようでした。現在は、より大規模な工事を伴う下水道事業に携わり、現場内での事故の絶無はもちろん、交通規制や騒音による住民への影響が最小限となるよう、日々注意を払っています。

今年は愛・地球博の開催に合わせて、市内でも多くのイベントが開催され、各イベントの運営に全庁的に取り組みました。私もスタッフとして、全く初めての仕事をやる機会に恵まれ、通常業務の中では得られない多くのことを学び、新しい出会いもありました。そういう経験も自分の糧にしながら、幅広い視野を持って仕事をするよう努めていきたいと思います。

同窓生からの投稿



念願の画集出版

(株)オカザキイラスト

須崎 明彦氏

昭和56年 建築学科卒業

私がまだ社会人になりたての頃、ある人から「画集を出版したらどう」と言われたことがありました。その出来事をきっかけに自分でも必ずいつか実現したいと密かに夢見ていました。

私の仕事は、工業製品の取扱いや修理等に関するマニュアル、カタログに掲載するためのイラストを図面や資料から作成する仕事です。その仕事とは別に趣味で空想画を描いていました。その手法はエアブラシ画法というもので、描き上がったデッサンの上に、色を塗る部分だけを切り抜いてマスキングを施し、スプレーガンでアクリル絵の具を吹き付け、色を塗り重ねて下地を作った後、細部を筆で描き込んでいく手法です。このような作業を、仕事を終えて帰ってから毎日1~2時間続け、3~4か月ぐらいかけて完成させます。そのため、年に2枚ぐらしか描けませんが、私が愛工大時代に学んだ事が「継続は力なり」だったので、小さな事でもコツコツと粘り強く続けてい

れば必ず大きな力になってくれると信じて今日まで描き続け、ようやく30枚以上描き溜めることができました。そして最近になってインターネットで簡単に自費出版ができることを知りました。

初期に描いたものはほとんど見劣りするものばかりとなり、一区切りつけるためにもこの辺りで思いきって本にして出版してしまおうと決意し、本のデザイン等を自分で手がけ、色々失敗を繰り返しながら3か月ほどで念願の出版に漕ぎ着けました。そして、昨年11月に「須崎明彦空想画集」(発行所:ブイツーンソリューション、発売元:星雲社、税込価格1890円)として発売されました。もし興味を持たれた方は、全国の書店またはオンライン書店で注文することができますのでぜひお買い求めください。また、これからも描き続けていくつもりですので応援もよろしくお願いいたします。最後に、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

「須崎明彦空想画集」
(発行所:ブイツーンソリューション・
発売元:星雲社)



制作現場にて

H O T V O I C E

ホットボイス

去る8月20日に電気工学科(今回改め工学部電気学科専攻)の総会及び懇親会が行われ多くの同窓生が参加いただきました。

会則に基づき、5年に1回総会を行ってきましたが、今回は、我が母校八草キャンパスの近隣で愛知万博が開かれるという事もあり、1年繰り上げての開催となりました。おかげさまで、例年の2~3割増の総勢約200名(招待者含む)という参加者で、総会も満席、懇親会会場も熱気ムンムンの大盛況でした。さぞかし、旧友や諸先輩方との交流が深まった事と思います。個人情報保護法の施行により、同窓生の情報すら開示できない時代に、この機会を大いに活用していただければと思います。

尚、電気工学科一愛工大は4年後に創立50周年をひかえており、第五回電気工学同窓会は、その年一平成21年に開催予定しております。是非ふるってご参加下さい。

第 四回電気工学同窓会 及び総会開催!!

三菱商事(株)

星野 孝之氏

昭和57年 電気工学科卒業

名古屋ガーデンパレス
の懇親会会場



学内に新施設が続々誕生

学生寮に南館を増築

今回新たに増築された寮は鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積は約1300平方メートル。1階にロビーやラウンジ、洗濯スペースなどがあり、2～3階には個室が各11室、4階には女性用の4室と室内ドアで行き来できるコネクトルームを設置しています。2005年8月には「IDCロボットコンテスト2005 in 愛知工業大学」に参加する米、英、独、仏、ブラジル、韓、日の各国学生のための宿泊施設として利用され、本企画終了後に新学生寮として正式に使用されることになります。



1/20名以上に対応したキッチン 2/清潔感溢れる室内 3/八千草寮南館の外観

新専攻対応の13号館

学科の再編に伴った新たな専攻科目に対応するため、6号館に接続する13号館が誕生しました。鉄筋コンクリート一部鉄骨造りの5階建てで、機械学科、経営情報科学部が使用する160人規模の大講義室を設置。3階から上には複数のゼミ室もあります。



1/13号館の外観 2/講義室にはプラスマディスプレイを設置 3/6号館と13階との高低差に対応したエレベーター

地震研究の拠点「地域防災研究センター」

工学部・都市環境学科の正木和明教授らによるプロジェクト「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」が文部科学省の平成16年度産学連携研究推進事業に認定されました。この技術開発の研究拠点となるのが10号館北側に完成した「地域防災研究センター」。内部には免震装置や地震計が設置され、災害時には被害支援センターとして機能します。また、通常時は防災向上のための技術開発、防災知識の啓発、災害ボランティアの育成などに利用されます。

1/データを分析する観測装置 2/地域防災研究センターの外観 3/見学可能な免震構造



人事のご案内

退職教員紹介 ●平成17年3月31日付で退職を迎えた先生方からのコメントをご紹介します。



工学部機械学科 特任教授

久野 精市郎

平成15(2003)年3月で定年退職となり、続いて特任教授を平成17(2005)年3月で終了しました。私が本学に着任したのは昭和39(1964)年で、東京オリンピックのあった年です。以来41年間は、主として機械工作を担当しました。工作というモノづくりの上から、東海地区の機械工業発展の土台に、少しはお役に立てたのかな、と思っております。多様化する機械工学の行く末を見据えつつ、皆様方のご活躍を祈っております。



工学部都市環境学科 教授

藤川 壽男

1973年に非常勤として本学に関わるようになり、1992年からは専任として、実に30年以上にわたりお世話になりました。建築設計業の現場から研究、教育の場への転進は実務を体系的に整理するうえで貴重な体験でした。この間、折にふれ研究室を訪れる卒業生からの情報は建築教育を考えるうえで示唆に富み大いに参考になりました。現在、少子化の中で大学も多様化が求められ、本学もこれからの大学像を模索しているようです。同窓生の皆様も母校にますます関心を寄せられ、社会の求める大学創りにご協力のご程お願い申し上げます。



マーケティング情報学科 教授

竹内 弘之

平成12年経営情報科学部開講の時、教授に就任し本年3月定年を迎えました。あつと言う間の5年間でしたが、学者の仲間入りをし新しい環境で新鮮でした。

私は(社)中部産業連盟専務理事との兼任で大学院開設に当り産業界との連携、愛名会と共催による講演会開催など後藤理事長の思いに些かでも報いることができたかと喜んでおります。また、特任教授に推薦いただきしばらくお世話になります。講義を通してフレッシュな学生と交流できることを楽しみに尽くす所存です。

退職教員(平成17年3月31日付)

工学部電子学科	特任教授	内山晋
工学部機械学科	特任教授	久野精市郎
総合技術研究所	特任教授	吉川俊夫
工学部都市環境学科	教授	藤川壽男
経営情報科学部マーケティング情報学科	教授	竹内弘之
工学部電気学科	助教授	前田昭徳
新任教員		
工学部		
電気学科情報通信工学専攻	教授	久野和宏
機械学科機械工学専攻	教授	松室昭仁
都市環境学科建築環境学専攻	教授	八木明彦
経営情報科学部		
情報科学部経営情報システム専攻	教授	中田信正
情報科学部経営情報システム専攻	教授	西田耕三
基礎教育センター		
総合教育教室	教授	小栗友一
自然科学教室	講師	伊藤健

人事異動(卒業生関係)

新任		
教学センター学生課	事務職員	馬詰恵伍(H17U)
本山キャンパス事務室	事務職員	小西貴之(H17T)
情報科学部・マーケティング情報学科	事務職員	岡田奈美(H17U)
昇任		
応用化学科応用化学専攻	教授	尾之内千夫(45C)
応用化学科応用化学専攻	教授	井上眞一(45C)
応用化学科応用化学専攻	助教授	大矢公彦(41C)
愛知工業大学情報電子専門学校	助教授	中山貴子(H8R)
学園事務局財務部	次長	川出善晴(49K)
学生支援本部教学センター教務課	事務主任	西裕之(H11K)
学位取得		
愛知工業専門学校		細野耕司(55B)

瑞若会事業報告

本部の会議

【H16年度】

- H17.2.24 第4回事務局会議開催
- H17.2.24 第4回総務常任委員会開催

【H17年度】

- H17.4.28 第1回事務局会議開催
- H17.4.28 第1回総務常任委員会開催
- H17.5.26 第2回事務局会議開催
- H17.5.26 第2回総務常任委員会開催
- H17.6.18 「瑞若会」理事会開催(名古屋ガーデンパレス)
- H17.6.18 支部長会議開催(名古屋ガーデンパレス)
- H17.7.28 第3回事務局会議開催
- H17.7.28 第3回総務常任委員会開催
- H17.10.27 第4回事務局会議開催
- H17.10.27 第4回総務常任委員会開催

学内事業・行事

【H16年度】

- H16.12.12 「みずわかvol37」会員へ郵送
- H16.12.13 「理事長の叙勲を祝う会」
- H17.2.10 「後藤淳先生・旭日中経賞受章祝賀会」出席(ウエスティナゴヤキャッスル)
- H17.2.26 愛知工業大学後援会OB会出席
- H17.3.19 平成16年度卒業式「瑞若賞」贈呈

【平成17年度】

- H17.4.5 平成17年度入学式で新入生に「START-UP」配布
- H17.4 新会員のデータ入力
- H17.4 新会員の同窓会費入金処理
- H17.4.26 第1回「みずわか」編集委員会開催
- H17.5.24 第2回「みずわか」編集委員会開催
- H17.10 愛工大祭開催への援助
- H17.11.7 第3回「みずわか」編集委員会開催

支部事業

【平成16年度】

- H16.1.22 地域支部参加「中国・四国支部新年懇親会」
- H17.2.18 地域支部参加「岐阜県支部役員会」
- H17.3.13 地域支部参加「関東支部総会」(品川区立総合会館)

【平成17年度】

- H17.5.13 職場支部参加「愛菱会」
- H17.6.11 三重県支部役員会
- H17.6.24 職場支部参加「三友支部」
- H17.7.9 地域支部参加「三重県支部役員会」
- H17.7.10 地域支部参加「中・四国支部懇親会」
- H17.8.6 地域支部参加「三重県支部役員会」
- H17.8.20 電気工学科同窓会(名古屋ガーデンパレス)
- H17.8.27 岐阜県支部総会(岐阜グランドホテル)
- H17.8.29 地域支部参加「三重県支部役員会」
- H17.9.24 三重県支部総会(四日市都ホテル)
- H17.10.8 北陸支部総会(ホテルイン金沢)

その他

【平成16年度】

- H16.11.27 大同工業大学同窓会創立40周年記念出席
- H16.12.10 私立大学同窓会連合会定例事務局長会議開催(ホテルキャッスルプラザ)

【平成17年度】

- H17.4 同窓会管理システム改新
- H17.4.28 私立大学同窓会連合会定例事務局長会議開催
- H17.5.24 私立大学同窓会連合会三役会開催(ホテルキャッスルプラザ)
- H17.7.8 私立大学同窓会連合会平成17年度総会(ホテルキャッスルプラザ)
- H17.8.27 岐阜AITオープンフォーラム(岐阜グランドホテル)
- H17.9.17 関西AITオープンフォーラム(京都タワーホテル)
- H17.9.24 三重AITオープンフォーラム(四日市都ホテル)
- H17.10.8 北陸AITオープンフォーラム(ホテルイン金沢)
- H17.10.15 中国・四国AITオープンフォーラム(岡山口イナルホテル)
- H17.10.22 静岡AITオープンフォーラム(浜松名鉄ホテル)

会員訃報

- 電子工学科 大澤 滋 (H2年卒)
- 電子工学科 青木 隆司 (S41年卒)
- 梅原 文雄 (H11年卒)
- 土木工学科 田中 等 (S54年卒)
- 経営工学科 大鹿 真護 (S44年卒)
- 長谷川信彦 (S44年卒)
- 栗脇 一 (S47年卒)
- 岩田 重郎 (S54年卒)

学内「マイティー」で親しまれてきた鈴木茂子さんが逝去されました。長い間ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。



平成16年度決算書 収支計算書 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで ~経常経費~ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
入会金(基本金)	5,000,000	4,356,000	△644,000	
終身会費	25,000,000	21,780,000	△3,220,000	
年会費	10,000	36,800	△26,800	
受取利息	200,000	174,369	△25,631	
雑収入	100,000	100,000	0	私大同窓会連合会事務局費
名簿売却収入	0	0	0	
当期収入合計①	30,310,000	26,447,169	△3,862,831	
前期繰越金②	58,850,606	58,850,606	0	
収入合計①+②	89,160,606	85,297,775	△3,862,831	

支出の部				
事業費				
科目	予算額	決算額	差異	備考
学科・支部援助費	2,500,000	2,763,327	263,327	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
会報発行費	7,000,000	6,266,517	△733,483	
卒業記念品費	800,000	231,000	△569,000	
準会員支援費	900,000	880,000	△20,000	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,330,718	△169,282	
(小計)	13,300,000	12,071,562	△1,228,438	

事務費				
科目	予算額	決算額	差異	備考
人件費	1,200,000	1,051,410	△148,590	
消耗品費	600,000	566,357	△33,643	
会議費	2,000,000	1,349,489	△650,511	
慶弔費	400,000	478,250	78,250	
私大同窓会連合会費	150,000	201,800	51,800	
雑費手数料	100,000	81,670	△18,330	
(小計)	4,450,000	3,728,976	△721,024	

予備費	400,000	0	△400,000	
基本積立金へ	5,000,000	4,356,000	△644,000	入会金
当期支出合計③	23,150,000	20,156,538	△2,993,462	
当期収支差額④(①-③)	7,160,000	6,290,631	△869,369	
名簿発行・40周年準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	63,010,606	62,141,237	△869,369	
支出の部合計③+⑤+⑥	89,160,606	85,297,775	△3,862,831	

平成16年度決算書 収支計算書 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで ~基本積立金~ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費からの繰入	5,000,000	4,356,000	△644,000	
前期繰越金	160,708,087	160,708,087	0	
収入の部合計	165,708,087	165,064,087	△644,000	

支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	165,708,087	165,708,087	△644,000	
支出の部合計	165,708,087	165,708,087	△644,000	

平成16年度決算書 収支計算書 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで ~50周年準備費~ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費からの繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	7,718,797	7,718,797	0	
収入の部合計	10,718,797	10,718,797	0	

支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	10,718,797	10,718,797	0	
支出の部合計	10,718,797	10,718,797	0	

次期繰越額	
内訳明細	金額
基本積立金	165,064,087
経常経費	62,141,237
50周年準備金	10,718,797
合計	237,924,121